

12月

輸血療法委員会の活動について

消化器外科・乳腺外科部長
(輸血療法委員長)

つねだ あつし
経田 淳



“輸血”に関して詳しくご存じの方はそんなに多くないと思います。

そこで、まず輸血とは何か?からお話していきます。

血液は、赤血球や白血球、血小板といった細胞成分と血漿成分からできていて、それぞれ独自の働きを持っています。輸血に使われる血液製剤は、赤いものだけではなく、大きくその3種類の成分である「赤血球液製剤」、「濃厚血小板製剤」、「新鮮凍結血漿」に分けられます(細かくはそれ以上です)。そしてその全てが赤十字血液センターを介して、みなさんの善意によって献血されたものです。現在は、患者さんが必要とする上記いずれかの成分だけを輸血する「成分輸血」が主に行われて

ています。不必要な成分を輸血しなくてすむためです。

輸血療法は、手術やけがで出血したり、血液疾患による血液成分の欠乏や機能不全の場合に、その成分を補充する目的で用いられる、移植療法の一つです。

輸血用血液製剤は、今ではその安全性は非常に向上しましたが、副作用・合併症のリスクが完全になくなったわけではありません。また、善意に支えられた立派な医療行為であり、安全かつ適正に無駄なく輸血を行う必要があります。

そのため、平成11年に厚生省から「輸血療法の適正化に関するガイドライン」が出され、それを受けて当院にも“輸血療法委員会”が設置されました。この委員会は、かしくまってしまう『病院内における輸血療法が安全かつ円滑、適正、効果的に行われるよう、総合的具体的な対策を検討し、普及啓蒙する』ことを目的としています。輸血療法には複数の部署が関わるので、委員の構成は医師や臨床検査技師を中心とした多くの部署から選出され、活動しています。

具体的な活動としては、

- ・血液製剤が適正に、どれくらい使用されているか
- ・輸血用血液の検査がしっかりなされているか
- ・輸血療法マニュアル(手順書)の作成・改定
- ・輸血療法に伴う事故や副作用の発生調査とその対策
- ・輸血関連情報の周知 などがあります。

患者さんが安全に輸血という治療を行えるよう、見えない力で尽力しています。

実際の現場では、医師ではなく臨床検査技師を中心としたスタッフが大きな役割を担っています。

次のページはその中心となっている方のお話しに続きます。

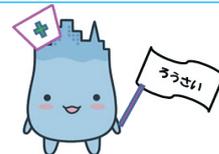
富山ろうさい病院では、毎月、ケーブルテレビ「NICE TV」で放送中の行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：2024年12月1日～12月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「(仮)認知症患者の増加と最新の治療」

(出演者) 脳神経外科医師 工藤 誠也



過去の放送はこちらのQRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ

絶賛
放送中



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/index.html/>